

全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年と中学校第3学年を対象に、児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて児童生徒への学習指導の改善・充実に役立てることを目的として実施されています。教科に関する調査に加え、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査も実施されています。なお、この調査により測定できるのは、学力のうち、特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどをご理解ください。

【瑞穂市全体の結果から】

小・中学校ともに教科に関する調査において、小学校は2教科とも全国平均正答率と同程度、中学校は2教科とも全国平均正答率以上の結果となりました。

【小学校】

国語	全国平均正答率と同程度となっています。
算数	全国平均正答率と同程度となっています。

【中学校】

国語	全国平均正答率を上回っています。
数学	全国平均正答率を上回っています。

教科に関する調査の状況（全国平均と比べて）

【小学校】

- 国語** ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに判断することができるかどうかをみる問題がよくできていました。【読む項目】
 ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して記述することができるかどうかをみる問題に課題が見られました。【書く項目】
- 算数** ○示された図形の作図中に見取図について、正しい作図であるか判断することができるかどうかをみる問題がよくできていました。
 ●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができるかどうかをみる問題に課題が見られました。

【中学校】

- 国語** ○話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめ記述することができるかどうかをみる問題がよくできていました。【話す・聞く項目】
 ○目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題がよくできていました。【読む項目】
- 数学** ○問題場面における考察の対象を明確にとらえ、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる問題がよくできていました。
 ○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題がよくできていました。

質問紙調査

- ①「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒が小・中学校ともに8割以上であり、全国を上回っています。
- ②「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに全国を上回っています。
- ③「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を有効に活用するかを問う項目」については、全ての項目において小・中学校ともに全国を大きく上回り、ICT機器の活用に非常に肯定的な意見である。
- ④「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに全国を上回っています。
- ⑤「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに全国を上回っています。

【今後の指導について】

小・中学校ともに児童生徒が学校や家庭において、学力向上を目指して継続的に取り組んでいる成果が表れています。特に中学校に関してはその成果が大きく表れています。解答様式が選択式や短答式の問題に関しては全体的に正答率が高いが、記述式の解答様式になると全体的に正答率が低い傾向にあります。そのため、上記質問紙調査項目の④⑤を実感させることを念頭に置きながら様々な学習活動において、自分の考えを記述し明確に意見をもったり、仲間と自分の考えを交流したりするなどして、アウトプットする活動を積極的に位置付け、表現力のさらなる向上につなげていきます。